



キーパーズの吉田太一代表取締役は、次のように指摘する。

「弊社がお手伝いする個人の方は、普通のサラリーマンだった方が非常に多いです。もう、そのことで驚く時期は過ぎましたね」

もあった。「飲食とか介護とか、仕事は選ばなければ何かしらありますから。でも本人は現役時代の自分の人生を切り替えることをしなかったし、できなかった。いい人なんです、プライドが高くて気難しい一面があって他人を簡単に寄せ付けない性格でした。」

熟年離婚で転落するのは男性が多い

サラリーマンほど「自分は真面目に働き、家庭を大事にしてきた」との自負が強いと吉田氏は語る。「ただ、誰だって定年後は必ず会社から離れる。そして、場合によっては一人で

老後を暮らす可能性はあるんです。老後破綻は誰のせいにすることもできません。自助努力をするしかないのです」

と確実に壁にぶつかります。前職と同じ事務職の仕事にはほぼ就けないと考えた方がいい。男性ならマンション管理人、清掃、警備。女性は調理補助、介護、販売などが求人中心です」

全く新しいスキルを身につける方法もある。都が運営する職業能力開発センターの取り組みでは、ビル管理、ホテル・レストランサービス、経営管理実務などの科目を半年間学び、卒業後は関連する業界への就労支援も受けられる。

家庭外に、さまざまなつながりを持つ女性に比べ、これまでの居場所だった「職場」と「家庭」を共に失った精神的なショックを受けやすく、生活能力の低い定年後の男性は、生活が破綻しがちなのだ。

応募資格は概ね五十歳以上。教科書代などを除けば基本的に授業料は無料だ。

仕事には、金銭面にとどまらない重要性がある。都内ハローワークで求職活動している大津武夫氏（仮名・59）は、大手製造業の管理職を務める現役会社員。六十五歳ではなく六十歳で早期リタイヤする代わりに、五十八歳からの二年間は給料を通常通りもらいながらセカンドキャリアの準備に充てられる社内制度を使っているという。

「正直、預貯金は七千万円

## シニア再婚をあきらめない

こうした離婚を原因とする老後破産の防衛策はあるのだろうか。

まず、大事なのは、自分を変えてでも、収入を得ることだ。熟年離婚は、慰謝料支払いや財産分与で、老後の資産を想定外に失ってしまうがちだ。

前出の高野正義さんのケースのように、男性サラリーマンは現役時代を終えた

「五十五歳以降のシニア・ホワイトカラーは、定年後の再就職についてしっかりイメージを持っておかない

ほの郊のけでい。がオ。いて。まだ。護の。ろん。こと。金だ。た。同「。離。賀。状。や。は。け。で。欲。し。も。入。事。を。社。ら。で。と。安。と。に。大。に。事。に。いた。の。味。が。いて。

「遺品整理専門企業である」